

北海道各地から産出する黒曜石  
その11とかちほう  
十勝地方

(Tokachi Region)

十勝地方からは、ガラス光沢、又は、にぶい光沢をした2種類の黒曜石が見つかり、それぞれ十勝Ⅰ組成グループと十勝Ⅱ組成グループに分類できます。

ガラス光沢で良質な十勝Ⅰ組成グループの黒曜石は、音更川水系において現世の河川堆積物として分布する割合が高く、音更川上流域では南クマネシリ岳西側周辺に崖錐状角礫質礫岩として分布していたり、新第三紀中新世のタウシュベツ層中に含まれていたりします。

南クマネシリ岳の東側では、黒曜石の分布がかなり少ないことを考慮しますと、新第三紀中新世以前に現在の南クマネシリ岳西側近辺で黒曜石の溶岩の噴出があり、それらは火山灰や軽石などの火山噴出物とともにタウシュベツ層として周辺で堆積したと考えられます。

やがて、地殻変動により、十勝地方一帯に堆積場が形成され、そこにタウシュベツ層から黒曜石が洗い出されて、第四紀更新世の池田層上部層中に円礫の状態では含有されました。

現世の河川で採取できる黒曜石は、上士幌に分布するタウシュベツ層中や下流域一帯に分布する池田層上部層中から流されてくると考えられます。

それに対し、若干結晶が目立ち、にぶい光沢をしている十勝Ⅱ組成グループの黒曜石は、ほとんどが然別川水系で見つかる割合が高くなっています。特に、池田層群最上部が露出しているペンケチン川や鎮鍊川、然別川といった河川では、下流へ行く程、黒曜石の分布が多くなる傾向があります。これは、溶岩の噴出後、一旦、池田層群中に堆積したものが、その後の浸食作用によって洗い出されたと考えられます。このように然別川上流域が噴出源と考えられますが、その場所は未だ明らかになっていません。

十勝地方から見つかるので「十勝石」という異名がある黒曜石ですが、中でもガラス光沢で良質な黒曜石の噴出源は、これまでの詳細な現地調査によって南クマネシリ岳西側が噴出源であることが向井によって初めて明らかにされました。  
(学芸員 向井 正幸)



南クマネシリ岳手前の崖錐堆積物中に角礫の黒曜石礫が多数含まれる。



更新世の池田層上部層(居辺川)に南クマネシリ岳起源の黒曜石が含まれる。



風化作用で水和層が厚くなっている黒曜石礫(上士幌町東居辺の居辺川)。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

